

内海府小中たより

令和7年11月28日発行 第8号

佐渡市立内海府小中学校

〒952-3205 佐渡市鷲崎 918 番地

学ぶことの目的

内海府小学校長 椎 一夫

子どもの頃、「勉強しなさい」「宿題は終わったの」と、親によく言われていたことを覚えています。きっと、だらだらテレビを観ていたり、ヨモギ鉄砲や釣り竿をつくって遊んでいたりしかなかったからでしょう。その頃は、「なぜ、学ぶのか」についての説明を一度も聞いたことはありませんでしたし、聞き返すことも「藪蛇になるかも」と聞き返せませんでした。この後、「なぜ、学ぶのか」を意識したのは学生の頃です。「小学校と中学校の違いは何か」を問われる機会があり、その落としどころが、「進路を決めるかどうか」でした。



これまでの学校教育制度の編成を見ると、昭和58年に指導的な完成教育(社会に出る準備)から自らの主体的な学びを大切にする自己教育へと大きく転換し、教育の理念が「生涯にわたり学び続ける力を育む」こととなりました。当校では地域の皆様からご支援とご協力をいただきながら多様な体験活動に取り組んでいます。そして、「活動の工夫」「地域の皆様の思いや願い」・「人々がつながる自治の在り方」「地域の一員として自分にできること」を体験活動の見方・考え方として展



開しています。こうすることで、体験活動が生涯にわたる主体的な学びにつながっていくことを期待しています。

もっと前の江戸時代を見ると、男女や地域、身分を超えて教育が発達し武士のみならず、むしろ庶民が主体的に学ぶ教育が進められています。義務教育がなかった時代に、多くの子どもが「手習い」として、寺子屋等で読み書きなどを学んでいたことは周知のことと思います。その一人一人の主体的に学ぶ教育やそれによって培われた大きな志が根底にあって、明治維新を実現させ、さらには近代日本の知的基盤を形成したと考えられます。



これらに共通している重要な言葉が「主体的」です。「分かる・できる」といった知識・技能を確実に身につけることはもちろん大切ですが、学ぶことをとおして、将来生きていくうえで必要となる力を培うことこそ、学ぶことの本来の目的であり、「なぜ、学ぶのか」の答えにつながるのではないのでしょうか。

12月に入り各学年ともに学期のまとめの時期となりました。単なる知識・技能の定着に終わることなく、まず、各教科の中で問題解決の方法となる見方・考え方を習得させる。次に、それらを使い実生活とつながる問題や解く楽しさにつながる発展問題に活用させる。そして、見方・考え方の良さを感じ取らせる。このような授業を振り返らせ、学ぶことの目的を子どもが実感できるようにしていきたいと思ひます。

佐渡市音楽発表会

10月30日(木)に佐渡市小学校音楽発表会、11月5日(水)に佐渡市中学校音楽発表会がアミューズメント佐渡で行われました。小学生は「内海府カンゾウ太鼓」、「海府のさと」をトーンチャイムで演奏し、中学生は「海府太鼓」を演奏しました。大勢の観客の前で子どもたちは少し緊張している様子でしたが、いつもとは環境が違う広いステージの上で、これまでの練習の成果が発揮された素晴らしい演奏を披露しました。



内海府小・中学校文化祭

11月9日(日)に内海府小・中学校文化祭を行いました。小学生は、学習発表と内海府カンゾウ太鼓を披露し、中学生は、合唱と地域の方と一緒に海府太鼓を披露しました。また、鷺崎鬼太鼓保存会の皆様による「子ども鬼太鼓」や鷺崎亀太鼓会の皆様による「佐渡おけさ」「鷺崎港」「鷺崎ふれあい音頭」にも参加し、練習の成果を発揮しました。展示作品では、授業中に作成した立体作品や絵画、書写作品などが展示されました。また、地域の方からも作品を出していただき、にぎやかな作品展になりました。ご協力をいただきました地域の皆様に変感謝をしております。ありがとうございました。



ジオパーククラブ(6)

11月12日(水)に、今年度最後となるジオパーククラブの活動で鷺崎オリエンテーリングを行いました。縦割り班のグループで協力して、鷺崎地区の様々な場所に設置された問題を探し、グループの仲間と相談しながら答えを導き出しました。秋晴れの中、子どもたちは鷺崎地区を全力で走り回り、楽しそうに活動をしていました。



12月の予定



- 3日(水) 親子郷土料理教室、個別懇談会②
- 7日(日) 寒ぶり大漁まつり
- 8日(月) 寒ぶり大漁まつり振替休日
- 19日(金) 実力テスト②(2年)、④(3年) 中
- 23日(火) 小中合同クリスマス会
- 24日(水) 2学期終業式
- 25日(木) 冬季休業日(~1/6)